

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立菊川小学校
校長名	谷澤 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語科では、全ての学年が全観点別平均正答率で全国平均を上回っている。特に3～5年は「知識・技能」で5ポイント以上、「思考・判断・表現」では10ポイント以上上回っている。・社会科では、4・5年は全ての観点別平均正答率で10ポイント以上上回っている。6年は「知識・技能」3.4ポイント「思考・判断・表現」で3.8ポイント上回っている。・算数科では、全ての学年が全観点別平均正答率で、全国平均を上回っている。特に3年の3観点、4年の2観点は10ポイント以上上回っている。・理科では、4・5年は全観点別平均正答率で全国平均を上回っている。・英語科6年では、「知識・技能」で2.6ポイント上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・国語科・算数科については二極化の傾向が見られるため、下位の児童には学年を遡って言語、作文や四則計算といった基礎的な内容の指導が必要である。・国語では、自分の考えを文章で表現する問題、作文、算数では、計算式から文章問題を考える問題等に無回答が多いため、文章表現力を高める必要がある。・社会科の観点別平均正答率が6年の「主体的に取り組む態度」で-0.9ポイント下回っている。・理科の観点別平均正答率が6年の「思考・判断・表現」で-0.4ポイント「主体的に取り組む態度」で-2.1ポイント下回っている。・英語科6年では、「思考・判断・表現」で-1.5ポイント、「主体的に学ぶ態度」で-5.6ポイント下回っている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「テストで間違えた問題はあとでやり直しをしていますか。」という質問では、2年92%、3年85%、4年71.6%、5年78.6%、6年68%が「いつもやり直している」「だいたいやり直している」と回答している。・「授業や日常生活の中で不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べていますか。」という質問では、2年57.3%、3年47.5%、4年64.9%、5年50.2%、6年38%が「いつも調べている」「だいたい調べている」と回答している。	<ul style="list-style-type: none">・「平日、一日どれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、2年6.7%、3年20.0%、4年9.5%、5年14.3%、6年16%が「まったくしない」と回答しており、一部の児童には家庭での学習習慣が身に付いていないことが分かった。家庭学習の内容や方法について子熱に指導する必要がある。・「最近、学校の勉強が難しくなったなど感じることはありますか」という質問に、5年12.5%、6年28%が「分からないことが出てきた」と回答している。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、画像や動画などの資料を授業の導入で提示して、児童の興味・関心を高めることができた。また、ロイロノート等で児童の意見を集約し、様々な考えを比較することができ、それぞれの考えを効果的に検討することができた。 ・ミライシードや、まるぐランド（低学年）などのアプリを使って、宿題などで楽しみながら練習問題に取り組む児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信をもって発表できる児童が少ない。学習過程を児童によく理解させ、自力解決の時間確保、発表の方法の定着を図る。出された意見を検討する活動、学習のふりかえりにも力を入れ、全員が何らかの方法で学習内容の要点をアウトプットできるようにする。 ・学習の遅れが見られる児童については、授業に個別の支援を行い、放課後補充教室では全学年に遡って、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組

学力向上委員会を中心に、学力向上のための取組を年間を通して計画的に進める。全学年・全学級で確実に取り組み、各教科において基礎・基本の定着を図る。

時期	主な取組
4月	学力パワーアップ週間①（区学力調査過去問題に取り組む） ○墨田区学習状況調査・全国学力調査
5月・6月	○都学力向上を図るための調査・墨田区学習状況調査の解き直し・解説
7月・8月	区学習状況調査の健脚・夏季補充教室・学力向上プラン作成
9月・10月	家庭学習強化週間①・学習ふりかえり週間①東京ベーシック・テスト①
11月・12月	学習ふりかえり週間②
2月	家庭学習強化週間②
3月	学習パワーアップ週間②・東京ベーシックテスト②・学力向上プランの評価

○朝学習・朝読書

毎週火曜日・木曜日・金曜日の8時30分～8時40分、全学級で朝学習に取り組む。

火曜日 国語（漢字練習・漢字ミニテスト・読解プリント（よむよむワークシート・音読）

木曜日 読書（私語を慎み、静かな環境で全員が読書に取り組む）

金曜日 算数（計算ドリル・100マス計算・ミライシード・まるぐランド）

○放課後補充教室・新チャレンジ教室（1・2年生）夏季補充教室

各学級毎月2回 放課後補充教室・新チャレンジ教室を設定し、スクールサポートティーチャーによる補充教室を実施する。各担任が児童のつまずきに応じてプリントを用意する。

○家庭学習の定着

各学年で足並みを揃え、家庭学習の課題を出す。どのような内容をどの程度家庭で取り組みばよいのかを明確に指示し、毎日実施状況を確認して、学習習慣を定着させる。教員間の意識の統一を図り、学級差がないようにする。

(2) 課題解決型の学習過程の定着

毎時間の授業では、課題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 前時のふりかえり（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる めあてをつかむ）
- 2 見通し（答えの見通し・解決方法の見通し）
- 3 自力解決（自分で考える・発表の練習をする）
- 4 発表・検討（グループで・全体で考える・よりよい方法を考える）
- 5 まとめ（分かったことをアウトプットする）
- 6 適応問題（定着を図る）

- ・学習規律を定着させ、自力解決の時間を確保する。
- ・話形を用いて、自分の意見やその根拠をはっきりと述べられるように指導する。
- ・教師と児童のやりとりでなく、児童相互に意見交換ができるように促す。

(3) SP表の活用と理科・社会の復習

令和5年度の墨田区学習状況調査の結果分析の際には、SP表を活用し、児童個々の課題とつまずきの多い問題の分析を丁寧に行い、全国平均を下回った観点は、現学年で補充の学習を取り入れるとともに、1学年下の学年につまずきの箇所を確実に引き継ぎ、次年度の対策を行う。

授業及び家庭学習において「ふりかえりシート」や「問題データベース」のプリントを活用し、習熟を図る。必ず覚えなければならない用語は確実に覚えさせる。授業中に、毎時間ふりかえりの時間を確保し、本時の学習内容について、分かったこと学んだことを文章や言語活動を通じて、アウトプットさせる活動を取り入れる。

宿題や家庭での自由勉強でも、社会・理科の学習に取り組ませ、学習内容を定期的に想起させる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全学年、全観点で全国平均正答率+5ポイント以上をめざす。
- ・全学年のD・E層の割合を20%以下にする。